令和7年度　飯塚市事務事業評価シート

令和　8　年　6　月　25　日　作成

事務事業名	伊岐須会館管理運営補助金交付事業	事務事業No.	114 - 4

1．基本情報

担当部	担当課	担当係	作成者職名	作成者氏名	所属長職名	所属長氏名
市民協働部	人権・同和政策課	人権・同和対策係	係長	宮原　幸志	課長	坂口　信治

施策体系				
総合計画	政　策	1	人権・市民参画
	施　策	1	人権尊重のまちづくりの推進
	基本事業	4	隣保館運営事業
その他の計画	個別計画		なし

根拠法令・条例・要綱等	伊岐須会館管理運営費補助金交付要綱				
事業開始年度	平成23年度	事業終了年度	なし	事務事業類型	ソフト事業
実施手法	一部委託	補助金等の支給	補助金等あり	実施計画期間	なし

2．事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と連動）

概要	旧隣保館で二瀬地区のコミュニティセンターとして位置づけられた「伊岐須会館」の管理運営を行う伊岐須会館管理運営協議会に対し、会館の円滑な管理運営を行い、地域住民の福祉と教養の向上を図るため補助金を交付するもの。
対象　働きかける相手・もの	伊岐須会館管理運営協議会
手段　方法・働きかけ（活動指標）	補助金を交付し、円滑な管理運営を行う。
意図　対象をどのようにしたいか（成果指標）	地域住民の福祉と教養の向上を図る。

3．活動指標（決算成果説明書と連動）

指標名	単位	指標の説明（算式等）	前年度実績	本年度実績	次年度見込
貸館件数（3月末） （次年度見込は過去3年平均）	件	貸館件数	293	258	281

4．成果指標（決算成果説明書と連動）

					前年度実績	本年度実績	次年度見込
指標	利用者数（3月末） （次年度見込は過去3年平均）	単位	達成目標値				
		人	過去3年の平均値	目標値	3116	3306	3345
説明	利用者数（3月末）	方向性	達成目標年度	実　績	3248	3377	
		維持	なし				
指標		単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込
				目標値			
説明		方向性	達成目標年度	実　績			
指標		単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込
				目標値			
説明		方向性	達成目標年度	実　績			

5．事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と連動）

経費区分	一般会計	経常経費	特別会計	－

予算科目・事業	会計	1	一般会計	款	2	総務費	項	1	総務管理費	目	4	財産管理費
	大	99	その他の財産管理費	中	16	伊岐須会館管理費				他	0	事業

	(R2以降)	前年度実績（千円）			本年度実績（千円）			増減理由（10%以上の場合）	次年度予算（千円）		
投入人員（当該事務事業に対して１年間に投入した人員）	正職員	0.15	人	1,222	0.14	人	1,189		0.14	人	1,189
	任期付職員(保育士)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	任期付職員(子ども家庭支援員)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	任期付職員(CW・水質)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	再任用フル	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	再任用短	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	会計年度 1級フル	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	会計年度 1級パート	0.05	人	132	0.04	人	117		0.04	人	117
	会計年度 2級パート	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
人件費計（A）		1,354			1,306			－	1,306		
事業費	直接事業費（B）	6,152			5,282				6,166		
	総事業費（A＋B）	7,506			6,588				7,472		
直接事業費のうちの主な歳出内訳	補助金	4,466			4,347				4,918		
	委託料	923			923				935		
財源内訳	使用料・手数料（受益者負担分）	0			0				0		
	国・県支出金	0			0				0		
	市債	0			0				0		
	一般財源	7,506			6,588				7,472		
	その他（　　）										

6．事務事業の事後評価★

評価視点	評価	評価の理由、または認識している課題を記載
妥当性評価	高い	地域のコミュニティーセンターとして広く利用されているため妥当である。
効率性評価	やや高い	利用者を増やし、使用料収入を増やすことができればコストを削減できる。
有効性評価	高い	二瀬地域のコミュニティーセンターとして地域住民の交流の場及び福祉と教養の向上を図る場として活用されており、事業の継続は有効である。

7．前年度評価時の計画と実績

前年度評価★		前年度記載した改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
評価区分	成果の方向性	次年度以降にコスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策	施設利用者増を図るため、管理運営協議会と協議を継続し、サークル活動を行っている団体に対し伊岐須会館の貸館業務について周知していく。
一次評価	現状維持		
	コストの方向性	次年度以降にコスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策	新築から40年近く経過しており、建物の老朽化に応じて設備を含む改修工事が必要となっている。
	現状維持		

前年度改善策に対する実績　★　　※上記の改善策に対して今年度に実施できたこと、などを記入

管理運営協議会により感染予防対策を徹底しつつ貸館の周知を実施したが、利用者数は3月末には前年度と変わらないが貸館数は若干ではあるが減少した。

8．今年度評価における成果と課題（決算成果説明書と連動）★

【成果】　感染予防対策を徹底しつつ貸館の周知を実施した結果、各種サークル等の利用者のべ人数は3,377人（3月末現在）と昨年の3,248人（3月末現在）に対して129人増加したが貸館件数は35件減少した。

【課題】　伊岐須会館（昭和57年新築）は新築から40年以上が経過し、老朽化による各所の修繕や各設備の更新が必要とされてきているが、平成23年4月に隣保館としての用途廃止をしており、大規模改修に係る県補助金の対象とならないため単費で実施する必要がある。また、利用者数の増加を図り、使用料収入向上による補助金負担減を行っていく必要がある。

9.今後の事業の方向性と改善策

成果の方向性 **現状維持**	【理由】　補助金の負担を減少させるには、施設使用料の増収を図る必要があり、管理運営協議会と協力しながら貸館事業を周知し、市の補助金額を抑えることが出来る。
コスト投入の方向性 **現状維持**	【理由】　伊岐須会館は地域のコミュニティ施設として機能しており、管理運営を実施するための補助金であり、補助金を無くした場合は運営に支障をきたすため、必要である。

次年度以降の改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★

コスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策	施設利用者増を図るため、管理運営協議会と協議を継続し、サークル活動を行っている団体に対し伊岐須会館の貸館業務について周知していく。
コスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策	新築から40年以上経過しており、建物の老朽化に応じて設備を含む改修工事が必要となっている。

2次評価（最終評価）	成果の方向性 **縮小**	本施設老朽化に伴う大規模改修や建て替え等は実施しない方向性とし、将来的な廃止を見据え、現段階の事業の方向性としては縮小とする。なお、事務室として使用している団体との協議は早期に実施しておく必要がある。
	コスト投入の方向性 **縮小**	通常、施設の管理運営については、委託料が適切であると思慮するが、本施設について補助金での支出が適切であるか否か、財政担当課との協議も併せて実施し検証を実施すること。なお、将来的には老朽化に伴う施設廃止の方向性とすることから、併せて、コスト投入も必要最低限とし縮小の方向性とする。